

「教職員を対象とした長期休業中における校外研修」

★事業の概要★

事業のねらい

児童生徒に必要とされる「体験活動の機会」「良好な人間関係」の観点から学校教育現場で活用できる技術を学ぶ。

期 日

平成28年1月7日（木）～1月8日（金）

会 場

国立大雪青少年交流の家

対 象 者

学校教員および教員を目指す者（大学生を含む）教育関係者

参加者数：参加募集人数

5名：5名

講 師

国立大雪青少年交流の家職員

日 程

		12:30	13:00	13:15	14:15	14:30	16:00	17:00	17:30	19:00	22:00
1/7 (木)		受付	開会	①講義	休憩	②演習	つどい	夕食	入浴 自由時間	就寝準備	就寝
		7:15	7:30	9:00	10:30	11:00	12:00				
1/8 (金)	つどい	朝食	③演習	まとめ	閉会						

★プログラム紹介★



開会式

2日間の研修日程と施設の利用方法について確認し、今回の研修における各自の目標について交流し、参加意欲を高めた。



講義「子どもの生活習慣・学習習慣の重要性について」

体験が培う自立的行動習慣、子供を取り巻く環境（実態）や体験活動の必要性について学んだ。



演習「コミュニケーショントレーニング」

大雪青少年交流の家で実践しているコミュニケーショントレーニングを中心に、指導方法の具体例について学んだ。



演習「燻製作り」

大雪青少年交流の家が提供しているプログラムの「燻製作り」を体験し、食育の重要性と必要性について学んだ。



演習「テレマークスキー・スノーシュー」

冬季の野外体験活動プログラムであるテレマークスキーとスノーシューを体験し、必要な技術を学んだ。



まとめ

2日間の研修を振り返るとともに、今後、どのように学校現場でいかしていくかについて考察した。

企画・運営のポイント

参加者の校種や担当学年、担当教科が異なることを想定し、複数のプログラムを用意し、参加者自らがプログラムを選択できるようにした。

北海道では、子供たちの体力向上が課題となっているため、冬の野外体験活動を取り入れ、その指導技術を学べるように工夫した。

事業を終えて（成果と課題）

参加者にとってはじめて体験する冬の野外活動となり、意欲的に取り組む研修となった。

参加者からは「学校で生かしたい」「子供たちの余暇活動の充実につながる」という声が聞かれるなど満足する研修になった。コミュニケーショントレーニングについては、個別での研修であったため演習にはならなかった。

今後の方向性

子供たちの健やかな成長のために、指導者である教員や教育関係者に、体験活動の意義や体験する機会を提供することが不可欠である。今後も青少年教育のナショナルセンターとして学校教育現場で活用できる体験活動の普及啓発を行う必要がある。